

関西理学療法学会の方向性

会長 鈴木俊明

「治せるセラピスト」を養成する学術団体

トップダウン評価での正しい問題点の把握

・・・問題点は理学療法評価による機能障害を導き出す

ポイントは「動作分析ができる」ことである

動作分析ができるようになるには、正常動作を解剖学、運動学で表現できることである

各施設での症例検討を定期的に行なう

六地蔵総合病院、医療法人社団 石鎚会、ひかりメディカルグループ、
社会医療法人 弘道会、喜馬病院、丹後ふるさと病院 など

外部発信できる学術団体 一動作分析を詳細にできるためには一

学会発表、論文投稿できる環境を 雑誌「関西理学療法」の充実

大学院での学位取得

研究領域でのリーダーを育成する

本会でも研究領域での講師制度を設ける

「治せるセラピスト」を養成する

正しい理学療法評価

動作分析の能力を高める

症例報告、臨床研究活動を推進

- 1 臨床研究者・養成校の教育者
- 2 施設での理学療法士としてのリーダー

- 1 医学会での講演、学術団体での講演
- 2 施設での役職者